

鴨 台 社 事 通 信

事務局：〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨3-20-1 社会福祉学専攻内
TEL 03-3918-7311 (内線2431)/FAX 03-5394-3057

ごあいさつ

会長 大谷壽雄 (新制大学1期生 昭和26年3月卒)

会員の皆さんこんにちは。お元気ですか。今年度の大正大学社会福祉学会は大会テーマを『子どもの健全な発育を求めて』と題し、ご退任される中村 敬教授の最終講義とシンポジウムを予定しています。この大会は会員の協力を持って推進すると共に相互の親睦を深めるための同窓会的な意味があります。公私ご多忙とは存じますが、皆様お誘い合わせの上ご参加いただきますようお願いいたします。

91周年になる伝統と歴史の流れの中で、時代と共に変貌する社会福祉の為に、今年度から学科名をアーバン福祉学科としてスタートしました。在校生と共に卒業生の私たちが頑張ろうではありませんか。流行不易とすることばがあります。社会福祉は不易変わらないのですが、流行は時代の最先端を行くといった意味に取れます。戦後65年の歳月が流れ、社会福祉の分野も大きく変貌しています。私達もこの流れの中で遅れる事なく、前進ある方法論と実践が求められます。会員諸兄姉のご活躍を心から期待し、ご挨拶と致します。

第33回大正大学社会福祉学会のご案内

大会テーマ 『子どもの健全な発育を求めて』

【日 程】 平成22年2月7日(日) 13:00 受付

【会 場】 大正大学巣鴨校舎1号館2階 大会議室

【プログラム】

13:15~13:45 総会

14:00~15:00 中村 敬教授最終講義 『子どもの幸せを求めて—今、なぜ子育て応援が必要なのか—』

15:30~17:00 シンポジウム 『子どもの健全な発育を求めて』

コメンテーター 中村 敬氏 (本学・教授)

地域における子育て支援拠点事業の実践を通して……………石井 栄子氏(NPO 法人生活福祉ファクトリー)

障害のある子どもとその親へのよりよい支援を求めて……………佐鹿 孝子氏(埼玉医科大学教授)

児童養護施設職員への聞き取り調査から……………亀田 秀子氏(聖徳大学非常勤講師)

コーディネーター 高橋 一弘氏(本学・准教授)

17:30~19:00 懇親会(2号館 2階 学生ラウンジにて)

【参加費】

大会参加費(中村先生への記念品代込み)

¥4,000 (学生・院生は半額)

懇親会費

¥3,000 (学生・院生は半額)

中村先生への記念品代(欠席する方で希望する方のみ)

¥2,000

※大会当日ご欠席の方で、記念品代を振り込んでいただきますと、後日記念出版図書をお送りいたします。

【お申し込み】 同封のFAX用紙又はメール(shakaifukushi2@mail.tais.ac.jp)にて平成22年1月12日までにお知らせ下さい。併せて1月末日までに参加費・記念品代のお振込みをお願いします。

大正大学で学んだみなさんへ

中村先生よりメッセージをいただきました

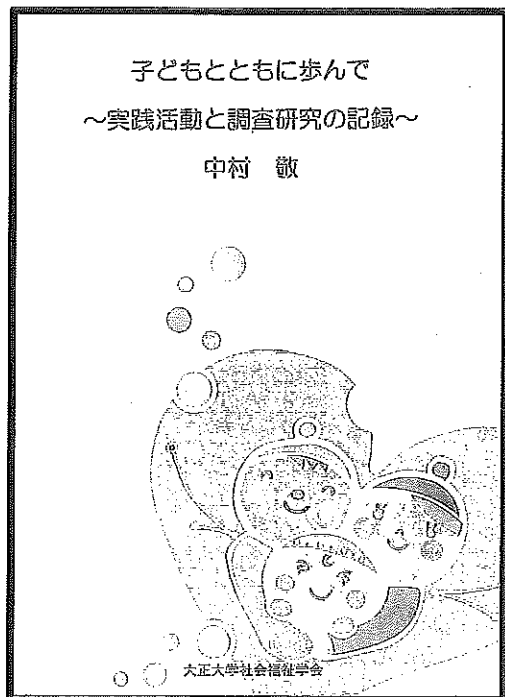
今、子どもを取り巻く社会環境は、子どもにとって幸せとは言い難いと思われてなりません。少子化が進行することも問題ですが、少子化といえども子どもは確実に生まれてきますし、その子どもたちが、子どもにとって適切な環境で、すくすくと育っていくことがわれわれ大人の大きな望みです。幸い、最近になって、社会が子育てを支援するということを真剣に受け止めるようになってきたと思います。

私がこれからの社会に望みたいことは、子どもが大切にされることはもちろんですが、子どもが、子どもを大切に思う家族の豊かな愛情に包まれて、成育していくことです。物質的な豊かではなく、子どもの豊かなところを育て、子どもが堂々と社会に向けて漕ぎだす力を身につけられる環境です。こんな子どもを育てることのできる場は家庭でしかありません。これからの子育て社会の大きな目標は、ワークライフバランスだと思います。仕事と生活をしっかりと切り分けられる社会です。一部の人をうつ病にってしまうほど働かせ、一部の人失業して基本的な生活もままならない社会で、どうして子どもが育つのでしょうか。これからの子育て支援は経済的援助でもないし、保育の充実でもありません、ワークライフバランスの実現です。ゆとりのある家庭生活を取り戻すことだと思います。退職するにあたり、今の思いを述べさせていただきます。私自身は、まだ、子どもと家庭への支援のために引き続き活動を続けるつもりです。

アーバン福祉学科 中村 敬

記念出版

大正大学社会福祉学会・福祉デザイン研究所刊
中村 敬教授退任記念論文集



目次

はじめに

第一章 周産期における諸問題への疫学的研究

- Ⅰ. 妊娠中の喫煙に関する疫学的研究
- Ⅱ. 加齢による妊娠出産への影響に関する疫学的研究
- Ⅲ. 訂出生体重児の増加に関する疫学的研究

第二章 子育て支援への取り組み

- Ⅰ. 地域における子育て支援の実践と調査研究
- Ⅱ. こども虐待に関する取り組みと研究
- Ⅲ. 乳幼児健康検査の今後の課題に関する研究

2009年2月6日刊行

予定価格 2000円

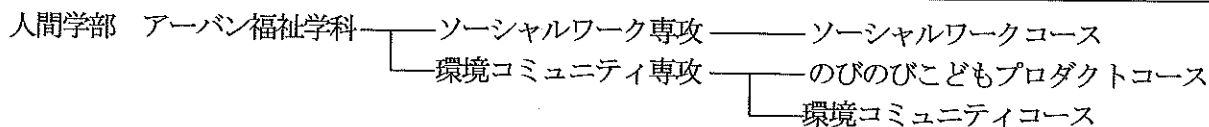


2010年4月大正大学は4学部体制の総合大学に！



新学部が誕生します

アーバン福祉学科も名称が以下のように変わります。



各コースの先生方からメッセージをいただきました。

人間学部 アーバン福祉学科 ソーシャルワーク専攻 ソーシャルワークコース

建学の精神である仏教の精神に基づく人間理解や社会観をもち、高い人権意識と、利用者本位の質の高いサービスの提供ができる実践能力のある社会福祉士、精神保健福祉士の養成を行うことを教育方針としています。

本コースは、1918年に日本で最初に設立された社会福祉従事者の養成、研究機関を受け継ぐもので、このような歴史と伝統は他校とは一線を画するものです。実習や演習を重視したカリキュラムで、利用者理解を根底にもつ豊かな人間性と感受性を身につけてください。また、国家資格を取得するための試験に合格することがゴールではなく、さらにその先まで自分のキャリアプランを描いて、新しい福祉が秘める可能性にチャレンジして欲しいと思います。

人間学部 アーバン福祉学科
環境コミュニティ専攻
のびのび子どもプロダクトコース

人間学部 アーバン福祉学科
環境コミュニティ専攻
環境コミュニティコース

こどもがのびのびと地域に息づく社会は元気の良い社会です。学生が生き生きと学べる大学は元気の良い大学です。

4年間こどもだけに特化し、こども漬けの毎日を送れるコースをつくりました。こどもが好きだから、小児科医になりたい、保育士になりたい、幼稚園や学校の先生になりたいという発想ではなく、こどものことならなんでもわかる「はかせ」になりたい人、こどもの元気を地域に取り返したい人、自分が絶対素敵な親になりたいって思っている人(大事なことです)。そんな人ならだれでもこの指とまってください。本当にわくわくするような学びを保証します。

福祉と聞くと高齢者や障がいをもつ人々への支援とイメージされがちですが、本来、福祉は「生活の豊かさ」と環境の豊かさを追究する学問」なのです。私たちは、今、この原点に立ち返り、「私たちの環境」を中心にすえた問題解決型の新たな取り組みを始めたいと思います。現在起こっている環境問題・福祉問題は、私たち自身が解決しなければならない問題です。「生活の豊かさ」から「環境の豊かさ」へ福祉の視点が変わりつつある今、一緒に将来の「あなた」を考え、実践で汗をかき、未知の体験から学んでみませんか。



卒業生コラム

◆恵美 真理子さん (H17年度卒業)

私は現在区立の保育園で非常勤保育士として勤務し、元気な子ども達の笑顔に囲まれ、一緒に走りまわったり笑ったりしながら日々を過ごしています。

私が児童福祉の分野で働くきっかけとなったのは中村先生の授業でした。二年間福祉を学び、何となく児童福祉に興味があり、中村先生のゼミに入り、授業の中で、子育ての現場に行く機会がありました。現場では子育てをする親だけでなく、保育や支援をする方々の姿を見たり、話を聞いたりすることが出来ました。初めて触れ合うたくさんの子ども達のもみじのような手の小ささや抱っこした感触、甘い赤ちゃんの香り、そして中村先生の子どもと触れ合う時の笑顔は今でも印象に残っています。子育てする親の話や子ども達の姿は、自分が初めて知る世界でした。それまで「子どもってかわいい！」と単純に思っていたのですが、幼児期の発達的重要性や抱える多くの問題に気付き、児童福祉の分野においてより深く学び、働き、関わっていきたいという決心ができました。今は、日々の保育を行っていく中で様々な困難にぶつかる事や、ハプニングにみまわれ、くじけそうになる事もありますが、学生時代に学んだ多くの事が、自分自身の課題の解決に大いに役立っています。また子どもたちの笑顔や「先生!!」とかけられる声を聞くと不思議なことに気持ちが落ち着き、心の底からパワーが湧き、笑顔になれるのです。一日一日成長をしていく子どもたちと春夏秋冬、季節の行事、遠足、運動会とたくさんの経験を一緒にし、自分も先輩の保育士に指導をして頂きながら成長出来るように頑張っています。自分の進むべき道を見つけるきっかけを下さった中村先生のゼミでの講義に心から感謝をしています。

◆金 霞さん (H17年度卒業)

大学院の修士課程を修了して早二年、私は現在、日本公文教育研究会大宮事務局で地区担当として働いています。大宮事務局管轄である川口市の52の公文式教室を担当しています。

「公文式」という名前をご存知の方は多いと思いますが、公文式の学習法について詳しく知っている方は本当に少ないと感じています。一人の父親(公文公さん)のわが子への愛情から始まった公文式は、現在世界46の国と地域に広がっています。それは50年経った今でも変わらない、「子どもの可能性の追求と世界平和」を理念としているからです。

私の仕事はよく「公文の先生」と間違われている時も多いですが、フランチャイズである公文式教室のサポートをすることが主な役割です。ひとつ一つの教室の発展と子どもたちの成長を先生と共に見守ることができるのがこの仕事の醍醐味です。まだわからないことが多く大変な時もありますが、できることも増えてきているので、つねにポジティブに考えながら、仕事を楽しんでいます。また、公文式教室にはいろいろな子どもがいるので、大学・大学院で学んだ児童福祉もとても役に立っています。

今年度でご退職される中村先生には、大学の時から大学院まで本当にお世話になりました。中村先生は自分にとって本当にかげがえのない存在です。社会福祉の勉強だけではなく、人間としても大きく成長させていただきました。日本での7年半の留学生生活を無事に終え、社会の一員として働いているのも中村先生のおかげです。先生との出会いは自分の人生観を変え、たくさんの方とも巡り合うことができました。これからもつねに周りの人々への感謝の気持ちを忘れず、精いっぱい頑張っていきます。中村先生、本当にありがとうございました。

アーバン福祉学科の動向

先日、日本社会福祉学会の大御所にお会いした。開口一番『アーバン福祉学科！いかがですか？』と問いかけを頂いた。その背景には『興味津々』であることを好にとりたい。

学内外でも『アーバン福祉??』と『興味津々』で、『名前を変えたから受験応募者が減った』とも言われている。『元に戻したほうが…』との意見もある。

90年ほど前だが、研究室開室の際その名称を『救済事業研究室に…』が多数意見の中で、学内関係者は迷うことなく『社会事業研究室』とし、時代と自らを信じてその構築に努力を重ねてきた。社会的現況を鑑みて『アーバン福祉』とした。関係者一同、一枚岩となり、『大正大学アーバン福祉』の構築に努力しなければならない。

その先駆けとして、石川到覚先生を中心に学科教員で『社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ』(大正大学社会福祉研究会編)を発売した。『大正大福祉教育』の目指す方向を編んでいる。諸先輩にはご一読頂き、ご指導を賜りたい。

来年4月からアーバン福祉学科は2専攻3コースとなる(3ページ参照)。2専攻となる中で双方が『アーバン福祉学』を真摯に研究教育を展開していく。

今一度『興味津々』ではなく『不易流行』をみきわめつつ。

卒業所先輩の一層のご理解ご指導を願う。

学科主任 落合 崇志

学会事務局 〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1 大正大学社会福祉学専攻内

TEL 03-3918-7311 [内線 2431] / FAX 03-5394-3057

Mail info@ohdai.com

事務局長: 熊澤 利和 事務担当: 櫻井 淳子(※冬期休業 12月22日~1月8日)